

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 404 号	氏名	永井 潤
学位審査委員	主 査	植田 弘師	
	副 査	塚元 和弘	
	副 査	岩田 修永	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、神経障害性疼痛の分子機構解明を目的として、その初発原因分子であるリゾホスファチジン酸(LPA)の脊髄および上位脳での産生機構を明らかにすることを目指しており、研究目的として妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>本研究では、神経障害後に生じる脱髄やリゾリン脂質定量などの生化学的解析を行なっている。特に、NALDI-TOF-MS法を用いたLPAの前駆体であるリゾホスファチジルコリン(LPC)の定量法の確立は、従来、低分子領域で測定が困難であったMALDI-TOF-MS法を改善した測定技術であり、簡便かつ分子種を同定することできる点で高く評価できる。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>坐骨神経障害によって産生される脊髄でのリゾリン脂質の合成が、下行性抑制機構を活性化させるモルヒネを前投与することにより抑制されたことから、神経障害によって生じる痛み刺激がリゾリン脂質の合成を誘発することを証明している。また、この痛み刺激は二次神経を介して上位脳にも到達することに着目し、上位脳においてもLPA合成機構が存在することを明らかにし、特に右脳視床でのLPA産生が原因不明であるミラーイメージペインのメカニズムであることが示唆された。こうした一連の研究成果は独創性に優れ高く評価できる。</p>			
<p>以上のように本論文は神経障害性疼痛におけるLPA合成機構解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(薬学)の学位に値するものと判断した。</p>			